相鉄 今、昔、未来！ 新聞

発行者 横浜市立中和田小学校
6年2組
石川 陽太郎

相模鉄道

相模鉄道（本社・横浜市）は、横浜と神奈川県の中央を結ぶ鉄道だ。本線、いずみ野線、厚木線と、新しく開業した相鉄新横浜線があり、営業キロは合計40.2キロである。相鉄新横浜線は、2019年11月に開業した。現在は西谷～羽沢横浜国大が相鉄・JR直通線としての役割を果している。相鉄線の乗降客数は1日平均63万人で、多くの乗客を横浜中心部や東京都心部へ運んでいる。

この新聞では、2017年に100周年をむかえ、さらにその先の100年に向けて発展を続ける相鉄線の今、昔、未来を、時代ごとに見くらべながら紹介していく。

相鉄車両

相鉄の車両は、現在、横浜の海をイメージしたヨコハマ・ネイビーブルーの色に塗られている。その前はブルーとオレンジの帯のデザインさらにその前は赤い帯の入ったデザインとなっていた。もっと昔しになると黄緑色の電車も走っていた。

相鉄車両 歴史

むかし：黄緑色の車両／赤い帯の入った車体

いま：相鉄ブルー 相鉄オレンジ／ヨコハマネイビーブルーの車体

点検用車両

むかし

構内入換などに使用されていた2000系電車

いま

7000系電車を事業用車両に改造した700系電車

相鉄線 今、昔、未来

相鉄・東急直通線

2022年の開業を予定している相鉄・東急直通線は、羽沢横浜国大から新横浜（仮称）を経由して東急線の日吉まで約10.0キロの連絡線を建設し、東急東横線・目黒線と直通運転を行うための路線、正式には羽沢横浜国大から新横浜（仮称）までは相鉄新横浜線、新横浜から日吉までは東急新横浜線という名称である。

相鉄では、東急線直通用車両として、2019年に新型車両の20000系を導入した。20000系は山口県にある日立製作所で製造された。東急線に入るため車体の幅を従来より20センチ小さくしており、1200系とはちがいすそしぼりがないのが特徴だ。

ホームの安全

むかし

白線の内側に点状ブロックがあったが、どちらが内側かわからなかった。

いま

内方線といっぱりでどちらが安全な方かがわかるようになった。

みらい

ホームドアの設置
相鉄では、2022年度中に全駅にホームドアを設置する予定。

そうてつのマーク

もっとむかし

相模鉄道

1959年2月に制定された社紋（創社のマーク）

ED10形電気機関車にもつけられていた。

むかし

相模鉄道

1987年7月に制定されたシンボルマーク。

SOTETSUの頭文字とセーフティー&サービスの2つの「S」を表現

いま

SOTETSU

2006年に制定されたグループマーク。

空間的な広がりと無限大（∞）をイメージしている。

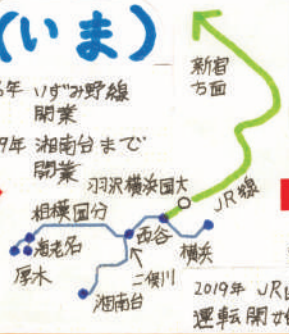
路線図

むかし

1943年頃 神中鉄道を吸収合併した。

（1944年に相模線部分は国に買収されてしまった。）

いま



みらい

東急線とも直通、さらにいずみ野線延伸計画も！

編集後記

相模鉄道の今、昔、未来をくらべることで相鉄の歴史だけでなく、これからどのように発展していくのかを思い浮かべることができた。また安全を追求していることもわかった。これからの相鉄の発展が楽しみだ。